

ある日の夕陽の物語

夕日の顔は心の鏡

すつきり丸く色薄く

悟りを開くかのように

独り静かに沈む時

夕暮れ雲に話しかけ

床に着くのを惜しむよう

呟きながら沈む時

赤いべ口を雲の谷

物の怪の役演じつつ

恨み恨んで沈む時

庵に籠もり声もなく

雲の向こうに滲むだけ

恥を忍んで沈む時

今にも降りそうな雲睨み

助けてくれよと手を合わせ

念仏唱えて沈む時

東に顔出す月待つて

もう一度一緒にやり直そう

沈むに沈めぬ時もある

夕日の顔は七色に

生き恥色の七変化

今日も沈んで行きました